

九州かわとも

第6号
TAKE
FREE



川カワ
くわとも

■ 特集記事

遠賀川流域住民の会の鮭放流活動

■ 「川の先駆者」

川内川あらし協議会・会長／今村 聰さん

■ 「流域じまん」

- ・乙津川水辺の楽校運営協議会
- ・緑川と石橋
- ・のおがたわくわく実行委員会

九州かわとも

川あそび情報誌
九州かわとも「やつぱり川へ行こう」

2023年春号(Vol.6)
2023年3月31日発行

編集発行：「九州かわとも」編集局
事務局：九州河川協力団体連絡会議

川あそび情報誌「九州かわとも」事務局
(一社) 北部九州河川利用協会内

TEL : 0942-34-6733
FAX : 0942-32-6977
MAIL : kawatomo.mk@gmail.com



九州の 川遊び情報募集中！

九州の川で色々な活動をしている皆様！「九州かわとも」編集局まで、
ぜひ情報を寄せください。お待ちしております。



「九州かわとも」6号 | もくじ

● 川の応援団 福岡県直方市長／大塚 進弘	1
■ 特集記事	
● 遠賀川流域住民の会の鮭放流活動	3
■ 【シリーズ】川の先駆者たち	
● 川内川あらし協議会・会長／今村 聰さん	5
■ 流域じまん	
● 流域じまん① 乙津川水辺の楽校運営協議会	7
● 流域じまん② 緑川と石橋	9
● 流域じまん③ のおがたわくわく実行委員会	11
■ 団体紹介	
・大武川／0024 ODAKE River project	13
・嘉瀬川／プラエリ実行委員会	
・菊池川／子どもの未来を考える会	14
・筑後川／朝倉わんぱく子ども応援団	
■ ~3年ぶりの現地開催！~第21回九州「川」のワークショップ in 筑後！	15
■ 協賛企業のご紹介	17
■ 編集後記	18



【表紙の写真】

第4回九州川の風景フォトコンテスト
優秀賞:川の楽しさ、魅力を感じる写真
福岡県:一本松川



【裏表紙の写真】

第4回九州川の風景フォトコンテスト
優秀賞:季節を感じる写真(春)
福岡県:草場川



「九州かわとも」第6号の発刊、心よりお祝い申し上げます。

本市は、東には福地山系が並び、平野部の中心を遠賀川が流れるという豊かな自然環境にあります。「遠賀川」と、「福智山」は、直方市民の心の風景として、地元愛の原点となっています。その遠賀川を例に、川と私たちの生活を考えてみます。

川は古来、人類に文明をもたらし、豊かさを支えてきました。遠賀川流域も川の恩恵を受け、弥生時代には稲作文化が栄えました。遠賀川式土器が開発されるなど、貝塚跡や墳墓が多数発掘され集落跡が多数存在しています。飲料や食料生産だけでなく、水運としての役割もありました。江戸時代には、長崎街道が直方で遠賀川と交差し、川渡しが行われ人も行き交いました。

江戸後期の燃える石「石炭」の発見・採掘は、川を重要な輸送手段として筑豊地区の発展並びに、日本の近代化を支えました。輸送手段が鉄道に代わった後は、農業・工業用水と飲料水の水源としての活用となりました。

さて、この遠賀川も、たびたび氾濫し地域に甚大な被害をもたらしましたが、近年の河川整備を通じて、氾濫は少なくなるとともに、河川敷の新たな活用が進んできました。河川敷は親水空間として様々な形で利活用され、魚取りや川遊びをする以外の人にも身近な存在となってきています。

直方市は、広い河川敷に恵まれていますが、昔は、雑草が生い茂り近づくことも出来ないところが多くありました。後に河川敷公園として管理がなされることによって、爽やかな景観を提供するだけでなく、一部牧草地利用を除けば、運動や、散策、イベントなど幅広く活用されるようになりました。

特に、上流部の飯塚地区がコスモスを、直方地区はチューリップを、下流部の水巻地区はコスモスをと、春から秋にかけて河川敷が彩られ花々を楽しめるのも、河川整備が進んだお陰です。特

に市役所下の河川敷は、緩傾斜の整備がなされ、オートキャンプ場やカヌー乗り場など親水機能が満載で、2009土木学会デザイン賞を受賞し、防災と親水・景観の両立が図られています。

また、自転車道も整備が進み、2019年上流部の飯塚から直方を通って河口である芦屋まで繋がる延長30.4kmの自転車道が完成しました。海岸部を走る遠賀・宗像自転車道へと繋がり、約60kmの自転車道として河川空間から海岸部の景観の二つを楽しめる魅力があり、直方市では毎月第三日曜日は「おはようサイクリング」が開催され、サイクリストだけでなく市民の自転車道として活用が広がっています。

こうした利活用の拡大の一方でごみ問題など環境問題が発生しています。水環境保全の一つの取り組み例を挙げますと、サケが遡上する綺麗な川を創ろうという取り組みがあります。その昔、サケの遡上が見られたことから、上流部の嘉麻市には鮭神社もある程です。下水道の整備など水質向上への取り組みとあわせて、毎年河川敷一斉清掃と上流部では稚魚の放流がなされています。その結果、近年、サケの遡上が確認されるまでになりました。

この取り組みに大きな役割を果たしてきたのが、流域住民による河川愛護団体の連携した活動と、川の生き物を展示する遠賀川水辺館を中心とする活動です。こうした活動の原点は、親水空間の利活用が進むことで環境に悪影響を与えてはならないという思いです。近年マイクロプラスチックなど新たな課題も出てきていますが、水が循環するように、生物も食物連鎖があり、すべては繋がっています。川に感謝し、川を身近なものとして、大切にすることは、川の恩恵を未永く次代の人たち繋いでいく上で重要です。身近な河川をそうした視点で考え、大切にすることが今SDGsと言われる持続可能な社会を創って行く上で極めて重要なことをこの原稿を書きながら考えさせられました。

鮭

が安心して産卵で生きる清流を目指して

「鮭は神様の使い」
古来より信仰の対象に

遠賀川に鮭が帰つてくる事を知っていますか？



↑769年建立の「鮭神社」
←「献鮭祭」の様子



「遠賀川源流サケの会」の思いと、見返りを求める市民目線の放流

福岡県北部を流れる一級河川遠賀川には、古来より鮭が遡上し、信仰の対象にもなっています。一時はその姿を見る事ができなくなっていましたが、現在は、河川環境再生のシンボルとして市民の手で放流活動が行われています。今回はその中心である遠賀川源流サケの会の思いや取り組みについて、同会の江頭亨事務局長に寄稿頂きました。

遠賀川は鮭が遡上する南限の川として学術的にも知られています。また、この遠賀川の上流の嘉麻市大隈（旧嘉麻町大隈）には、全国でも珍しい鮭神社と言葉名の神社があります。建立されたのは今から1250年前の奈良時代で、とても古いお宮です。この遠賀川に古くから鮭が遡上し、この鮭は神様の使いとして嘉麻の人々の信仰の対照になっています。神社の境内には「鮭塚」があり、毎年12月13日に遠賀川を遡上してきた鮭を神様にお供えするお祭をします（献鮭祭）。

昭和の初め頃までは鮭が遡上していましたが、その後は炭鉱のため川が真っ黒にごり、鮭の姿を確認することは出来ませんでした。鮭が来るのを待ち願う村人は、大きな大根に赤い唐辛子で目をつけたものを鮭に見立ててお祭をしてきました。

昭和53年の遡上で活動の機運が高まる

長い間、遠賀川への鮭の遡上の確認は出来ませんでしたが、昭和53年にこの遠賀川に帰ってきた鮭が確認されました。これを機に、鮭の孵化・稚魚の放流の機運が高まりボランティア数名で孵化・放流を行つてきました。当初は1匹か、全く遡上を確認出来ない年もありましたが、最近では3~4匹、しかも、雄と雌が一緒に遡上して来るようになります。平成22年、嘉麻市の馬見山に鮭の孵化場を開設し、「遠賀川源流サケの会」のメンバーにより毎年1月から鮭の孵化育成を行い、翌年の3月には遠賀川流域の放流団体の協力を得て、幼稚園児、小学生、中学生によって鮭の稚魚約4万匹を放流しています。

活動を通じて水環境や命の大切さを伝えたい。



子どもたちによる鮭の稚魚を放流する様子



↑孵化場内
↑孵化した鮭の稚魚
↑鮭の孵化場

ス頃です。一斉孵化した仔魚は孵化槽の寝床で卵黄を栄養分として生活します。積算水温が約80.0°C頃に浮上して、孵化槽から飼育槽に移動します（2月初め頃）。飼育槽では水流にさからつて泳ぎ、餌を捕ります。毎日、2~3回餌を与えます。飼育槽に沈んだ餌は食べません。水に浮かんだ餌のみを食べます。この飼育槽で約5cm程（稚魚）になってそろそろ放流の時期となります。

太陽と川のにおいを頼りに遠賀川に帰つてくる

毎年、12月13日、献鮭祭の日に新潟県村上市の三面川鮭産漁業協同組合から約4万粒の鮭の発眼卵が送られてきます。この発眼卵を孵化槽に入れ、鮭の孵化・育成・放流事業を開始します。この卵は人工授精して積算水温が約30.0°Cで発眼したものです。その後、この孵化場で積算水温が48.0°Cで孵化がはじまります。毎年クリスマスで孵化がはじまります。毎年クリスマス

3月に放流された鮭の稚魚たちは、群れで餌をとり、外敵から身を守りながら徐々に川をくだり、菜種梅雨で一気に河口まで下ります。その後、海洋に出で北をめざします。日本海の海水温度が16°Cのうちに海流に乗ってオホーツク海に到着しここで一年を過ごします。日本中の鮭の稚魚はここに集まります。次の年、アラスカ沖の海域に集まり、アラスカ沖とカナダ沖を行き来して、ここで2~3年間過ごします。太平洋海域の鮭類は全てここに集まります。4年目に総ての鮭は自分達の子孫を残すためにふる里の川に向かつて帰ってきます。海洋では太陽コンパスを使ってふる里の川をめざし、川の匂い（成分）の記憶を頼りに自分達の生まれた場所に帰つてくると言われています。遠賀川の鮭達は、毎年11月から12月にかけて、北海道近海や日本海での鮭捕獲漁業の網をくぐり抜けて響灘まで帰つてきたものです。

鮭の孵化場にはいつでも訪問することができます。また毎年12月からは、鮭の孵化や稚魚の育成状態を観察することができる。また毎年12月からは、鮭の孵化や稚魚の育成状態を観察することができます。この「遠賀川源流サケの会」は鮭の孵化・育成や放流を通して、水環境や命の大切さを子ども達に教えるとともに、鮭が帰つてきて安心して卵を産める清流作りを目指して活動するボランティア団体です。

「遠賀川源流サケの会」



WEB

遠賀川は鮭が遡上する南限の川として学術的にも知られています。また、この遠賀川の上流の嘉麻市大隈（旧嘉麻町大隈）には、全国でも珍しい鮭神社と言葉名の神社があります。建立されたのは今から1250年前の奈良時代で、とても古いお宮です。この遠賀川に古くから鮭が遡上し、この鮭は神様の使いとして嘉麻の人々の信仰の対照になっています。神社の境内には「鮭塚」があり、毎年12月13日に遠賀川を遡上してきた鮭を神様にお供えするお祭をします（献鮭祭）。

昭和の初め頃までは鮭が遡上していましたが、その後は炭鉱のため川が真っ黒にごり、鮭の姿を確認することは出来ませんでした。鮭が来るのを待ち願う村人は、大きな大根に赤い唐辛子で目をつけたものを鮭に見立ててお祭をしてきました。

昭和53年の遡上で活動の機運が高まる

長い間、遠賀川への鮭の遡上の確認は出来ませんでしたが、昭和53年にこの遠賀川に帰ってきた鮭が確認されました。これを機に、鮭の孵化・稚魚の放流の機運が高まりボランティア数名で孵化・放流を行つてきました。当初は1匹か、全く遡上を確認出来ない年もありましたが、最近では3~4匹、しかも、雄と雌が一緒に遡上して来るようになります。平成22年、嘉麻市の馬見山に鮭の孵化場を開設し、「遠賀川源流サケの会」のメンバーにより毎年1月から鮭の孵化育成を行い、翌年の3月には遠賀川流域の放流団体の協力を得て、幼稚園児、小学生、中学生によって鮭の稚魚約4万匹を放流しています。

特集 川の先駆者



今村 聰 さん



「夢は世界自然遺産！」

貴重な現象「川内川あらし」に着目した
地域活性化への思い

川内川あらし協議会・会長

鹿児島県の川内川河口域では、強風を伴った霧が勢いよく海へと流れ出る珍しい気象現象「川内川あらし」が発生します。今回は川あらしに地域活性の可能性を見出した、川内川あらし協議会の今村聰会長にその魅力や日頃の活動について話を伺いました。

ダイヤの鉱石を見つけた！ カメラに映つた貴重な現象

水害を機に抱いた 地域貢献への思い

大学で地学を学んだので、気象現象にも関心がありました。卒業後、営業先だった気象協会の方の薦めで、平成十三年に気象予報士の資格を取得。平成十五年に転職し、日本気象協会鹿児島事業所に着任しました。

そして、平成二十七年。NHK鹿児島放送局で気象予報を担当していた時の事です。川内市内のお天気カメラに早朝、霧がうごめく様子が映っていました。不思議に思い現地に行つて調べてみると、愛媛県で発生する「肱川あらし」と似ていました。世界的に有名な局地気象現象で、地域の観光資源にもなっています。私は、「ダイヤの原石を見つけた！」と感じました。肱川と同じ現象があるなら、同じような地域振興が出来るはず。早速、地元住民や気象予報士の仲間に声をかけました。

すぐに肱川を視察し、催しの見学や情報収集を行いました。肱川の活動を知るほど「川内川の現象も、磨けば絶対に光る。地元に広めよう」と思いました。私はその現象に「川内川あらし」と名づけました。

すぐに肱川を視察し、催しの見学や情報収集を行いました。肱川の活動を知るほど「川内川の現象も、磨けば絶対に光る。地元に広めよう」と思いました。私はその現象に「川内川あらし」と名づけました。

一方で偶然のご縁に恵まれました。肱川あらしが発生する愛媛県大洲市の清水市長（当時は、薩摩川内市の元助役）だつたのです。そのご縁で、当時の岩切薩摩川内市長と親交が深まり、ボトムアップの地域おこしに、トップ同士の絆も機能して、私達の活動は一気に加速しました。

活動はマイナスからのスタート 偶然のご縁にも後押しをうけた

川内川あらしのPR活動は、マイナスからのスタートでした。地域の方はあらゆる物を濡らす霧を厄介視しているのです。凄く貴重な現象だと理解頂けるまで時間と労力が必要でした。



最終目標は川内川、肱川、兵庫県の円山川という国内の3つの川あたりを世界自然遺産にする事です。ハードルは高く年数も必要ですが、子ども達の世代にも思いを継承し、我々と同じく志高く地域活性化を目指す方々と連携をして、地域への恩返しをしていきたいと思います。毎年十月から三月末までが川あらしのシーズンです。週一回程の頻度で発生します。



「早よ見やん川内川」を見て、タイミングをキャッチして頂き、薩摩川内市に遊びに来て頂ければ幸いです。

日頃からの川への関心が 非常時にもつながる

普段の川の状態を知っていると川の異常に気付く事ができます。日頃川を見ない人は、危険センサーが働きません。ですので、気象であれば生物であれば、川への興味が自身の防災にも繋がると思います。防災を日常に気負う事無く取り組む事ができればもっと多くの命が助かるのかなと思います。



「川あらし」が発生する要因は①川内川流域が霧の多発地帯である②河口付近が狭窄部である事です。朝方に発生する冷たい霧は低い所、河川へ流れ、さらによ下流へと向かいます。ドライアイスの煙が下へ流れる事と同じですね。

河口付近まで来た霧は、ホースの先をつまむと水が強く出るよう、狭窄部の河口から勢いよく海へと流れ出ます。河口付近の平均風速は5~6m程。強風なので「あらし」と呼ばれます。しかし、厳密な発生要因は今なお調査中です。川内川あらしの形状は、毎回異なります。事前の予測を切りられる事も多々あり、「そうくるか！」「今回は予想以上に凄かつたね」等、感想を肴に仲間と酒を飲む。それも楽しみのひとつです。



予測困難？川内川あらしの 発生メカニズム

「川あらし」が発生する要因は①川内川流域が霧の多発地帯である②河口付近が狭窄部である事です。朝方に発生する冷たい霧は低い所、河川へ流れ、さらによ下流へと向かいます。ドライアイスの煙が下へ流れる事と同じですね。

河口付近まで来た霧は、ホースの先をつまむと水が強く出るよう、狭窄部の河口から勢いよく海へと流れ出ます。河口付近の平均風速は5~6m程。

強風なので「あらし」と呼ばれます。しかし、厳密な発生要因は今なお調査中です。川内川あらしの形状は、毎回異なります。事前の予測を切りられる事も多々あり、「そうくるか！」「今回は予想以上に凄かつたね」等、感想を肴に仲間と酒を飲む。それも楽しみのひとつです。

「川あらし」が発生する要因は①川内川流域が霧の多発地帯である②河口付近が狭窄部である事です。朝方に発生する冷たい霧は低い所、河川へ流れ、さらによ下流へと向かいます。ドライアイスの煙が下へ流れる事と同じですね。

河口付近まで来た霧は、ホースの先をつまむと水が強く出るよう、狭窄部の河口から勢いよく海へと流れ出ます。河口付近の平均風速は5~6m程。

強風なので「あらし」と呼ばれます。しかし、厳密な発生要因は今なお調査中です。川内川あらしの形状は、毎回異なります。事前の予測を切りられる事も多々あり、「そうくるか！」「今回は予想以上に凄かつたね」等、感想を肴に仲間と酒を飲む。それも楽しみのひとつです。

流域じまん

「乙津川水辺の楽校運営協議会」の活動



全国各地にある「水辺の楽校」は、河川等を身近な遊び場や体験学習の場となるよう国土交通省が整備した水辺です。そこには場の活用や保全を行う市民活動があります。今回は大分市鶴崎地区で活動する「乙津川水辺の楽校運営協議会」の活動について、会長の安部さんに伺いました。

恩師の思いに集つた 教え子たち

私の高校時代の生物の先生だった、須股博信先生が国交省に熱心に掛け合いで、乙津川水辺の楽校が平成22年に完成しました。恩師の思いに賛同した教え子等15人程が翌年に運営協議会を発足。水辺の活用を検討する中で、大分市から不要になったカヌーを譲って頂く事ができ、平成26年からカヌー体験を始めました。当初はメンバーも不慣れだったので、舞鶴高校カヌー部の皆さんに手伝つて頂きました。

子ども食堂など活動広がる

平成28年からは、保健所の許可を得て、子ども食堂を同時開催しています。定番メニューは男衆で作るカレーライス。毎回3升の米を炊いて、楽校に持参します。みんな喜んで食べてくれますよ。

カヌーは2人乗りの大型で転覆しにくいのでゆっくり楽しめます。親子連れからシニア人まで、毎回40人程が参加。時には別府や白杵等からも来てくれます。道行く人に「乗つてきよ！」と声をかけて、輪を広げています。ある方

は「歩いて見ている景色」と違う！」と感動していました。毎回カヌーに乗る前に、河川敷の清掃活動もしています。その他にも、イベント「乙津川で遊ぼう」(令和3年度の第10回大会で終了)や、子ども達の自然観察、フジバカラ等の水辺の植物を育て、アサギマダラが訪れるようになった自然観察園等も取組んでいます。恩師の思いが実を結びました。



学習結果の発表の場

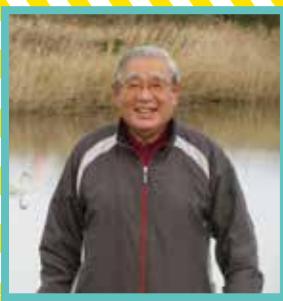
「鶴崎環境フォーラム」

私たちちは、鶴崎地区公民館との共催で「鶴崎環境フォーラム」を開いています。毎年、地域の6小学校のうち2校が水辺の楽校で河川環境等を学び、その成果を10分間で発表する行事です。これまでに17回開催しました。地域の恒例行事として定着しています。

しかし、一時期は働き方改革等の影響で学校から辞めたいという声が出た事もありました。「困った。これで終わらか」と思いましたが、当時の教育長に相談した所、「そういう体験が何よりも大事だ！」と仰つて頂きました。発表校を年3校から2校にする事で学校の負担も緩和でき、続していく流れができたと思いました。

だから水をきれいにして、いつでも川で遊べるようにしたいんだよと話しています。もっと頑張らなければいけないなと思います。私が若い時は乙津川で良いシジミが獲れました。そらく今まで水質が回復すると良いですね。シジミが沢山獲れて、皆がちょこつとずつ獲つて毎日の食卓を飾るような、そんな川になる事を願っています。

乙津川水辺の楽校運営協議会の
安部泰史会長



水辺の楽校とは？



大分市では乙津川が平成9年に登録され、平成20年7月に河川敷の整備が終わり、水辺の楽校として供用が開始されました。

楽校は、左岸側（別保地区）に3ヘクタールの広場、散策路、ワンドが、鶴崎スポーツパークに隣接した右岸側には、親水階段や1ヘクタールの広場が整備され、両岸が潜水橋（増水時は水面下に橋が沈む）で結ばれています。

子どもたちの体験学習はもちろんのこと、一般の方も自由に利用できる憩いの場所です。

「緑川と石橋」

くまもと かみましきぐん やまとちょう
熊本県上益城郡山都町



九州には数多くの石橋が現存し、地域の暮らしや文化の象徴の一つとして人々に愛されています。

今回は、熊本県上益城郡山都町、緑川上流域の支流、五老ヶ滝川に架かる「通潤橋」について、町内で里山再生活動に取組む団体「里山都」の牛島民雄さんにお話を伺いました。



放水だけじゃない！ 通潤橋が見せる四季の顔

「放水を見る事ができる機会は限られています。以外の魅力も楽しんで欲しいと話します。」

「架けられて160年経つ今でも、通潤橋が現役の水路橋として地域の田畠を潤しているのは、凄い事だと思いません。石橋はきちんと護れば半永久的に残っていく。そういった点に私は魅力を感じます。」牛島さんは10年前、通潤橋史料館の職員として、社会科見学の小学生から観光客まで、多くの人に、その成立から構造等を解説されていました。「通潤橋に感じる魅力は十人十色のようです。石橋の形が好きな人、石材の違いに注目する人、水路橋としての役割に魅力を感じる人。私もはじめは業務のために勉強していましたが、周りの石橋ファンの方々に感化され、石橋の魅力に染まってしまいました。通潤橋は、地域の水利組合をはじめ、多くの方に守られています。太平洋戦争の際は、空襲で爆撃されないよう、上部に竹を敷き詰めて橋を隠したとも伺っています。」

「里山都」の牛島民雄さん

【通潤橋】

1854年に建設された水路橋。水不足に悩んでいた地域を潤したいという熱意と、肥後の石工の技術により誕生した。石橋に使われている石材は、比較的加工がし易い阿蘇火碎流堆積物の溶結凝灰岩で、用途に応じた硬さの石材を容易に入手出来たことも九州に石橋が多い要因です。道の駅「通潤橋」「通潤橋資料館」を目印にお越しください。



Information

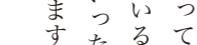
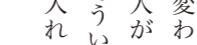
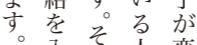
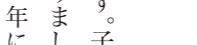
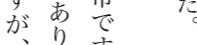
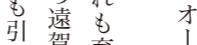
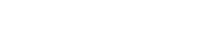
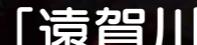


- 【所在地】〒861-3661 熊本県上益城郡山都町長原
- 【時間/定休日】特になし(見学自由)
- 【利用料金】無料
- 【駐車場】大型:18台、小型:136台(無料)
- 【その他】すぐ近くに国民宿舎や物産館があります
- 【備考】■建築年／1854年 ■長さ／75.6m 幅／6.3m 高さ／20.2m





ふくおか のおがた
福岡県直方市



子どもの未来を考える会

「親子で遊ぼう！学ぼう！つながろう！」

私たちは、子どもの遊びを通して、その健全育成を図ることを目的として、菊池市の有志で立ち上げた団体です。平成29年から、四季折々の自然とのふれあいで、様々な活動を通して地域との交流を図ってきました。

令和3年からは、北部九州河川利用協会の補助事業として「親子で遊ぼう！学ぼう！つながろう！」をスローガンに掲げ、環境教育を主に菊池川流域の川遊びを中心としたプログラムを実施してきました。

コロナ禍で予定した内容が中止、または延期になったりはしましたが、この内容は、5か年計画で菊池川流域の菊池市、山鹿市、和水町、玉名市の広範囲の宝物探し体験プログラムを計画しています。

親子でアウトドアの様々な活動を体験するだけでなく、環境汚染や地球温暖化についての勉強会をして、SDGsの意識も身に着け、自分たちに出来ることを実践(清掃活動・えひめAI(液体肥料), エコたわし作り)などを行っています。



親子サイト

朝倉わんぱく子ども応援団



遊びの中で「自然の中でどうやったらうまくいくかな？」と考えるきっかけ作り

朝倉わんぱく子ども応援団は福岡県朝倉市を中心に自然体験活動、子ども食堂、共同で農園活動など、子ども達向けに様々な活動を目的に2019年に団体を立ち上げました。

その中の自然体験活動は「ネイチャーキャンパー」という名称で行っており朝倉市の小中学校の子ども達を中心に2020年～2022年とこれまで3年間活動を行ってきました。

活動も定着し参加者が増えてきた事もあり、2023年は夏＆冬

の2期生とし、年間を通して子ども達に遊び・学んでもらえる環境を広げている最中です。

道徳心や思いやりの心の習得、脳の発達の面からみても、10歳前後までに何を経験し、何を考えるのか？子ども達の性格の基盤を作るうえで重要な時期です。遊びの中で「自然の中でどうやったらうまくいくかな？」と考えるきっかけ作りを今後は朝倉市だけではなく福岡、全国に広げていきたいと思っています。



くまもと
さくち
熊本県菊池市

0024 ODAKE River project



人と自然を思い大武川を中心とした新しい町の在り方を創造する。
それらをカタチにするためのプロジェクト

私達リバープロジェクトは、五ヶ瀬川水系一級河川大武川の環境保全活動を実施しながら、「大武川」を中心としたまちづくりに取り組んでいます。今まで川辺を中心としたイベント(水辺で乾杯、赤提灯プロジェクト…etc)を企画し、実践することで「川」から「人」との繋がりや新たなコミュニティを築き、町全体の地域活性化を図っています。

また、古くから伝わる文化や伝統、残された建造物の保護、維持に努め、その町の新たな価値や可能性を見出す活動に取り組んでいます。かつての大武町の「町並み」や「自然」を取り戻

し、創造的なまちづくりを進めるために動き出しました。

■具体的な活動内容

- ・大武川の環境保護（河川管理）：ゴミ拾い、除草作業
- ・歴史、文化の継承（地域活動）：歴史調査、イベントを通じて地域文化、歴史を学ぶ場の提供
- ・まちづくり：大武神社再建（大武神社エルプロジェクト）
- ・PR活動：Instagram、Facebook、YouTube等、SNSを通じて町や活動の宣伝広報

九州各地で「川と街をつなげる」「川と人をつなげる」取り組みが始まっています！



遊びの中で「自然の中でどうやったらうまくいくかな？」と考えるきっかけ作り

朝倉わんぱく子ども応援団は福岡県朝倉市を中心に自然体験活動、子ども食堂、共同で農園活動など、子ども達向けに様々な活動を目的に2019年に団体を立ち上げました。

その中の自然体験活動は「ネイチャーキャンパー」という名称で行っており朝倉市の小中学校の子ども達を中心に2020年～2022年とこれまで3年間活動を行ってきました。

活動も定着し参加者が増えてきた事もあり、2023年は夏＆冬

の2期生とし、年間を通して子ども達に遊び・学んでもらえる環境を広げている最中です。

道徳心や思いやりの心の習得、脳の発達の面からみても、10歳前後までに何を経験し、何を考えるのか？子ども達の性格の基盤を作るうえで重要な時期です。遊びの中で「自然の中でどうやったらうまくいくかな？」と考えるきっかけ作りを今後は朝倉市だけではなく福岡、全国に広げていきたいと思っています。



ふくおか
あさくら
福岡県朝倉市



「水辺に親しむ機会をつくりたい」

プラエリ実行委員会は佐賀県佐賀市富士町の嘉瀬川とその支流を中心に活動している団体です。富士町内にある手付かずの清流をイベント等で有効的に活用し、水辺に親しむ機会を創出することを通して、地域活性化を目指したいと北部九州河川利用協会に相談し、色々な協力を得て、約3年前から活動させていただいています。主にはイベントの開催や清掃活動などを実施しており、メンバーは富士町出身、在住の方を中心に富士町で仕事をしている人で構成しています。

2021年夏からSAGA FURUYU CAMPに隣接する貝野川

を舞台に、水辺イベント「SUISAI(水祭)」を開催しています。地域の温泉旅館や漁協組合と協働でヤマメつかみ、餅まき、マルシェなどを実施し、大変好評です。佐賀市内のフリーペーパー「ワイヤーママ」を宣伝媒体としたことで、子供たちを連れたファミリーが数多く来場され、富士町の夏のイベントとして早くも定着しつつあります。

私たちは今後、活動のフィールドを富士町の嘉瀬川や嘉瀬川ダム(しゃくなげ湖)に広げ、富士町の豊かな自然を活かした水辺の活動を幅広く展開していきたいと考えています。

♪3年ぶりの現地開催！♪ 第21回九州「川」のワークショップin筑後

令和4年11月26日（土）と、27日（日）の2日間、筑後川上流域にあたる大分県日田市の大山文化センターを会場に、「第21回九州「川」のワークショップ in 筑後」が開催されました！

元気しどったか～！

第21回九州「川」のワークショップ in 筑後



また、準グランプリには、大淀川流域ネットワーク（宮崎県・大淀川）の、国道沿いに植えられたワントニアパークを大淀川河畔の絶滅危惧植物の生育地保全に活用する取り組み



『皆様に感謝！』
園田匠実行委員長

2年ぶりの対面での開催となった「川」のワークショップですが、1年前から準備が始まり、コロナ禍の中、対面での委員会開催が難しい状況で、皆様にご理解とご協力を頂きました事をお礼申し上げます。皆様と久々にリアルでの楽しい語り合いができたこと、本当に嬉しく感じました。

川のワークショップ

司会のお二人



ひたもりあげたい



つなごう・つながろう
九州の川

この催しは、九州各地の河川やダム湖で活動する団体や行政機関、学校、企業等が集い日頃の活動を発表し合うと共に交流を深めるものです。課題の共有、人材育成、流域連携等を目的に、九州各地を巡回しています。今回は「つなごう・つながろう九州の川～水と森と命をまもる～」をテーマに、筑後川流域がホスト役を務め開かれました。

久しぶりの対面開催
再会を喜ぶ声とびかう

初日は参加団体による活動発表が行われ、子どもの部、一般の部併せて37団体が、環境保全、利活用、安心安全、川づくり等をテーマに発表しました。その方法は、スライドショーや模型を使つてのプレゼンテーション、寸劇、合唱、そして動画の上映等さまざま。3分間と限られた時間に、活動への思いや工夫した点等を盛り込みました。

発表会終了後には会場を移動し、感染対策を徹底した上で、3年ぶりとなる交流会を開催。立場や活動地、年代の垣根を越えて親睦がなされ、「元気しどったか～」「お久しぶりですね！」と、「お久しぶりです！」と、対面での再開を喜ぶ声が聞こえてきました。



活動発表会の様子



TOPIX

『流域治水の推進へ』協働宣言

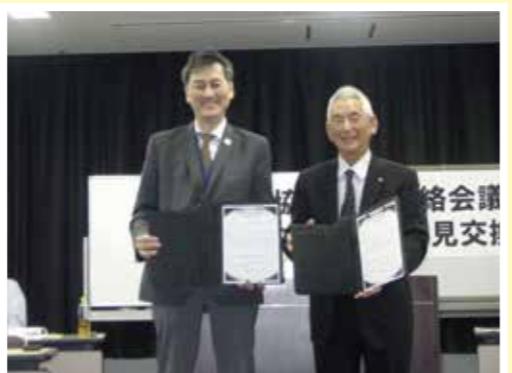
令和5年2月27日に開催された「九州河川協力団体連絡会議 全体会議」にて、九州地方整備局藤巻局長と九州河川協力団体連絡会議 中村代表が流域治水の推進に向けての「協働宣言」を行いました！

以下、協働宣言書の内容になります。

協働宣言

九州地方では、これまで災害と闘いながらも川の恵みを受け生活に潤いと産業経済の礎となって流域の歴史が育まれてきました。しかしながら、地球温暖化により豪雨の頻発や台風の強大化などが考えられ、これまで以上に生活や経済活動、自然環境への大きな影響が想像されています。

この進んでいく温暖化に立ち向かうとともに、流域の豊かな自然環境・恵みが今後とも育まれるよう、流域のあらゆる関係者により様々な取り組みを推進するため、九州河川協力団体連絡会議と九州地方整備局が一丸となり啓発など協働していくことをここに宣言します。



編集後記

「九州かわとも」第6号編集後記

第6号「九州かわとも」を手に取ってください有難うございます。

「九州かわとも」をご覧の皆さんには、お住いの地域、または偶然知った魅力ある情報など、是非とも事務局までお寄せいただきたいと存じます。

最後に、「九州かわとも」の情報が皆様の彩りある生活と流域の活発な活動、川に親しむ機会に繋げていただくきっかけとなれば幸いです。

九州各地には、環境維持のために川を支える活動、生活を豊かにする工夫と夢を抱いて活動されている方がいらっしゃいます。「九州かわとも」では、活動されている方々に情報提供していただき、流域の魅力、取り組みへの思いなどを掲載しております。事務局チームのメンバーも感動やワクワクをいただく素敵な情報に触れ、気づきと元気をいただいているます。

今回の発行に向けて、ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。



「九州かわとも」編集チーム



「九州かわとも」第6号読者アンケート→



川あそび情報誌「九州かわとも」をご支援いただいている賛助企業様

(株)有明測量開発社

〒860-4108
熊本市南区幸田2丁目7-1

いであ(株)九州支店

〒812-0055
福岡市東区東浜1-5-12

応用地質(株)九州事務所

〒812-0018
福岡市博多区住吉3丁目1番80号

(株)大本組 九州支店

〒810-0041
福岡市中央区大名2-4-30

(株)奥村組 九州支店

〒805-8531
北九州市八幡東区山王2-19-1

(株)オリエンタルコンサルタント 九州支社

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-8

(株)柿原組

〒810-0022
福岡市中央区薬院3-4-21

(株)川原建設

〒871-0434
中津市耶馬渓町大字樋山路38

技研興業(株) 九州営業所

〒812-0007
福岡市博多区東比恵2丁目20-25

(株)九州開発エンジニアリング

〒862-0912
熊本市東区錦ヶ丘33番17号

(株)九州建設設計画エンジニアリング

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

九州建設コンサルタント(株)

〒870-0946
大分市大字曲936番地1

(株)九州建設マネジメントセンター

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目5番19号

九州電力(株)

〒810-8720
福岡市中央区渡辺通2丁目1-82

(株)共同技術コンサルタント

〒880-0824
宮崎市大島町山田ヶ窪1926-1

(株)建設環境研究所 九州支社

〒812-0023
福岡市博多区奈良屋町2番1号

(株)建設技術研究所 九州支社

〒810-0041
福岡市中央区大名2-4-12

(株)建設技術コンサルタント

〒890-0007
鹿児島市伊敷台一丁目22番1号

国際航業(株) 九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東3丁目6番3号

五洋建設(株) 九州支店

〒812-8614
福岡市博多区博多駅東2丁目7-27

砂防エンジニアリング(株)

〒350-0033
埼玉県川越市富士見町31-9

清水建設(株) 九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通3丁目6番11号

第一復建(株)

〒812-0006
福岡市博多区上牟田1丁目17番9号

(株)大進

〒890-0016
鹿児島市新照院町21番7号

(株)高崎総合コンサルタント

〒839-0809
久留米市東合川3丁目7番5号

中央開発(株) 九州支社

〒814-0103
福岡市城南区鳥飼6-3-27

(株)東京建設コンサルタント 九州支社

〒812-0016
福岡市博多区博多駅南2丁目12番3号

飛島建設(株) 九州支店

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通5丁目14番12号

(株)西技計測コンサルタント 九州営業所

〒826-0041
田川市弓削田見立3175

(株)西日本科学技術研究所

〒780-0812
高知市若松町9番30号

西日本技術開発(株)

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1丁目1番1号

(株)日水コン 九州支所

〒812-0038
福岡市博多区祇園町7-20

日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店

〒820-0053
飯塚市伊岐須1-356

日本工営(株) 福岡支店

〒812-0007
福岡市博多区東比恵1-2-12

日本振興(株) 九州支店

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-5-21

(株)ニュージェック

〒531-0074
大阪市北区本庄東2丁目3番20号

パシフィックコンサルタント(株) 九州支社

〒812-0012
福岡市博多区博多駅中央街7番21号

(株)不動テトラ 九州支店

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号

松尾建設(株)

〒840-0842
佐賀市多布施一丁目4番27号

松本技術コンサルタント(株)

〒871-0161
中津市大字上池永1285-10

三井共同建設コンサルタント(株) 九州支社

〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2-14-1

牟田建設(株)

〒842-0103
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲1756

八千代エンジニアリング(株) 九州支店

〒810-0073
福岡市中央区舞鶴3-9-39